

平成30年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年7月14日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コード番号 7829 URL http://www.samantha.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)寺田 和正
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)菅原 隆司 (TEL) 03(6400)5524
 四半期報告書提出予定日 平成29年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第1四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第1四半期	8,531	△14.5	51	△92.0	5	△99.0	△25	—
29年2月期第1四半期	9,982	△13.2	642	△42.1	519	△54.1	230	△61.3

(注) 包括利益 30年2月期第1四半期 △24百万円(—%) 29年2月期第1四半期 272百万円(△56.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第1四半期	△0.71	—
29年2月期第1四半期	6.52	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第1四半期	20,834	8,491	40.1
29年2月期	21,717	8,691	39.3

(参考) 自己資本 30年2月期第1四半期 8,345百万円 29年2月期 8,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	5.00	—	5.00	10.00
30年2月期	—	—	—	—	—
30年2月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	17,392	△1.6	32	20.7	22	△93.3	8	—	0.23
通期	37,642	6.2	649	—	629	41.2	328	—	9.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年2月期1Q	35,296,000株	29年2月期	35,296,000株
② 期末自己株式数	—株	29年2月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	35,296,000株	29年2月期1Q	35,296,000株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな景気回復の動きが見られた一方、英国のEU離脱問題や米国新政権への政策不安、及び中国を始めとする新興国経済の不確実性など、景気の先行については不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、インバウンド需要の減少や、消費マインドの低下が継続する厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、85億31百万円（前年同期比14.5%減）となりました。

売上総利益率は、コスト低減に努めた結果、前年同期比1.1ポイント増の69.1%となり、売上総利益額は58億92百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

販売費及び一般管理費は、人件費などの抑制を行ったものの、減収により、販売費及び一般管理費の対売上高比率は、前年同期比6.9ポイント増の68.5%となりました。この結果、営業利益は51百万円（前年同期比92.0%減）となりました。

営業外損益は、為替差損39百万円など合計48百万円を営業外費用に計上したため、経常利益は5百万円（前年同期比99.0%減）となりました。

特別損益は、固定資産除却損4百万円を特別損失に計上し、法人税等を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純損失は25百万円（前年同期は2億30百万円の利益）となりました。

なお、当社グループは「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

当連結会計年度における当社グループの主な取組みは以下のとおりであります。

<店舗展開について>

出店戦略として、話題の商業施設への出店を行ってまいりました。事業別の出退店数、主な店舗は以下のとおりであります。

バッグ事業においては、11店舗の出店(4店舗の退店)となりました。国内では、名古屋駅前の新たなランドマークとなるターミナルビルJRゲートタワー内の商業施設「タカシマヤゲートタワーモール」に「サマンサベガ、サマンサタバサアニバーサリー タカシマヤ名古屋ゲートタワーモール店」を出店いたしました。海外では中東エリア初となる、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイ国際空港近くに位置する巨大ショッピングモール「ドバイ フェスティバルシティモール」内の「ロビンソンズデパート」に「サマンサタバサ ロビンソンズ ドバイ店」を出店いたしました。

ジュエリー事業においては、「サマンサティアラ 新宿マルイ本館店」1店舗の出店となりました。

アパレル事業においては、9店舗の出店(3店舗の退店)となりました。「WILLSELECTION(ウィルセクション)」を池袋パルコ、静岡パルコ、浜松メイワン、宮崎ボンベルタに、「Swingle(スウィングル)」をマロニエゲート銀座2に、「REDYAZEL(レディアゼル)」をルミネ立川、名古屋パルコ、有楽町マルイに、「And Couture(アンド クチュール)」を阪急百貨店うめだ本店に出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計でブランド変更を含め、前年度末比で14店舗増加し、当連結会計年度末の店舗数は414店舗となりました。

<プロモーション活動について>

プロモーション活動として、TVCMや、多数のファッション誌への掲載、各種イベント・キャンペーンなどを行ってまいりました。

Samantha Vega×映画『ひるなかの流星』コラボレーションの新CMを、当映画の主演である永野芽郁さんとダンス&ボーカルグループ「GENERATIONS from EXILE TRIBE」のリーダーとしても活躍する白濱亜嵐さんを起用し、楽曲に映画主題歌Dream Amiさん作詞曲の「はやく逢いたい」を使用して放映いたしました。CM放映に伴いサマンサタバサ 表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて、CM連動コラボショップを期間限定展開いたしました。

また、今年度よりニューヨークを拠点に活動し、人気セレブなどのスタイリングや、数多くのブランドでファッションディレクターを務め、その斬新なスタイリングが話題の世界的クリエイターであるニコラ・フォルミケッティ氏とブランドプロデュース契約を結びました。2017年3月には、同氏をプロデューサーに迎え「PINK WORLD BY SAMANTHA THAVASA」を伊勢丹新宿店にて開催し、併せて「サマンサタバサ×伊勢丹新宿×11の人気ファッション誌」がコラボした特別企画を実施いたしました。

そして、サマンサタバサ 表参道GATES ポップアップ デジタルストアにおいて、アニメ「ONE PIECE」(ワンピース)の世界観を表現したコラボショップを展開いたしました。日本発世界ブランドを目指す「サマンサタバサ」と、海外でも人気を博すアニメ「ONE PIECE」、双方を応援する高橋みなみさんをお招きし、トークショーを開催いたしました。また、サマンサタバサならではの華やかさと、ディズニー実写映画「美女と野獣」をモチーフにした世界観を盛り込んだ商品を発売いたしました。映画の登場キャラクター気分を体感できるラインナップと、「ボールルーム」シーンの画像投影や、「バラの立体スタンディ」を設置したフォトスポット等、華やかな企画を実施いたしました。

さらに、新プロモーションモデルとして、2000年以降に成人した社会やファッションに影響を与えるデジタルネイティブである20代～35歳くらいまでのミレニアル世代を代表する「システィーン・スタローン」「ソフィア・リッチー」「ロッチェ・モス」「ケニヤ・キンスキー・ジョーンズ」「サラ・シュナイダー」の5人を新たなサマンサミューズとして起用した「2017 Samantha Millennial Stars」の新CMを放映いたしました。また、2017年4月にはサマンサミレニアルスターズ プレス発表会を実施いたしました。プレス発表会の様子は、TV、スポーツ紙、ネットニュースなど各メディアにおいて大きく取り上げられ話題を呼び、各ファッション誌においても、多数の特集が組まれました。

<商品戦略について>

商品戦略として、各ブランドにおいて多くの新作を販売し、話題性のある商品を販売いたしました。

バッグ事業においては、新プロモーションモデルである「Samantha Millennial Stars」を起用し、日本のKAWAII、そしてサマンサタバサの原点である「Sweet」、ニューヨークの洗練された「Cool(クール)」を融合させた、「Violet D」シリーズを展開致しました。サマンサタバサと出会った全ての人の夢を叶えるという想いを込めた「Dream-夢-」の「D」がモチーフとなった新商品です。

また、前年度にサマンサタバサのプロモーション契約を果たした中村アンさんなど、今注目のデザイナー、スタイリストとのコラボレーションラインナップを多数展開いたしました。

また、Samantha Vega × 映画『ひるなかの流星』コラボ新CMで紹介した、今年トレンドのチェーンがポイントのトートバッグ「アイリア」や丸みを帯びたシルエットがフェミニンなバッグ「シエナ」を展開いたしました。

さらに、サマンサタバサと「ONE PIECE」のコラボレーションとして、バッグからアクセサリまで、「ONE PIECE」の世界観を表現した夢の商品ラインナップをサマンサタバサ 表参道GATES ポップアップ デジタルストアのスペシャルコラボショップにて展開いたしました。

アパレル事業においては、2017年4月に、阪急百貨店うめだ本店が大きいサイズの婦人服売場の全面リニューアルに伴い新設し、日本屈指のインスタグラマー渡辺直美さんを特命バイヤーに起用したセレクトショップ「チャビィー カーヴィー (CHUBBY CURVY)」のオリジナル商品企画、制作を開始いたしました。

<本社移転および教育環境の整備について>

2017年4月に、本社を13年振りに移転いたしました。従業員の業務効率、モチベーションの向上、並びに会議、研修会場の整備を目的に移転し、1フロア約1300坪という都内最大級の無柱空間に執務室と全ブランドのショールームを配備しています。また、カフェおよびミーティングスペースを設け、従業員同士のコミュニケーションおよびクリエイションの活性を図る環境づくりを行っています。働きたい会社として、「フジテレビ」や「テレビ東京」の番組など多数のメディアに取り上げられました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は208億34百万円であり、前連結会計年度末と比較して8億82百万円減少しております。主な減少要因は、現金及び預金が9億84百万円、受取手形及び売掛金が1億9百万円減少したことなどによるものであります。

(負債)

総負債は123億43百万円であり、前連結会計年度末と比較して6億82百万円減少しております。主な減少要因は、長期借入金が8億69百万円減少したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産は84億91百万円であり、前連結会計年度末と比較して2億円減少しております。主な減少要因は、利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成29年4月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,391,782	3,407,228
受取手形及び売掛金	2,044,079	1,934,895
商品及び製品	7,959,156	8,658,691
原材料及び貯蔵品	293,495	319,808
その他	1,264,886	753,654
貸倒引当金	△6,127	△6,127
流動資産合計	15,947,273	15,068,150
固定資産		
有形固定資産	1,984,687	2,241,782
無形固定資産		
その他	457,931	448,408
無形固定資産合計	457,931	448,408
投資その他の資産		
差入保証金	2,952,409	2,724,336
その他	410,732	387,531
貸倒引当金	△35,356	△35,356
投資その他の資産合計	3,327,785	3,076,511
固定資産合計	5,770,404	5,766,702
資産合計	21,717,678	20,834,853
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,745,023	1,560,989
短期借入金	154,752	237,360
1年内返済予定の長期借入金	3,327,524	3,615,024
未払法人税等	303,076	24,950
賞与引当金	234,803	341,237
その他	1,491,873	1,523,865
流動負債合計	7,257,053	7,303,426
固定負債		
長期借入金	5,686,941	4,817,560
その他	82,135	222,816
固定負債合計	5,769,076	5,040,376
負債合計	13,026,129	12,343,802

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	4,248,743	4,047,109
株主資本合計	8,633,943	8,432,309
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,619	8,117
為替換算調整勘定	△112,642	△94,785
その他の包括利益累計額合計	△90,023	△86,667
非支配株主持分	147,628	145,408
純資産合計	8,691,548	8,491,050
負債純資産合計	21,717,678	20,834,853

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
売上高	9,982,090	8,531,155
売上原価	3,195,807	2,638,291
売上総利益	6,786,282	5,892,864
販売費及び一般管理費	6,144,181	5,841,370
営業利益	642,100	51,494
営業外収益		
受取利息	200	239
補助金収入	1,916	—
その他	1,446	1,838
営業外収益合計	3,563	2,077
営業外費用		
支払利息	9,057	7,756
為替差損	115,344	39,190
その他	1,422	1,488
営業外費用合計	125,824	48,434
経常利益	519,839	5,136
特別損失		
固定資産除却損	11,527	4,839
その他	2,866	—
特別損失合計	14,394	4,839
税金等調整前四半期純利益	505,445	297
法人税、住民税及び事業税	167,264	40,940
法人税等調整額	114,714	△13,380
法人税等合計	281,978	27,559
四半期純利益又は四半期純損失(△)	223,466	△27,261
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,662	△2,108
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	230,129	△25,153

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	223,466	△27,261
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,155	△14,501
為替換算調整勘定	57,734	17,745
その他の包括利益合計	48,579	3,243
四半期包括利益	272,046	△24,017
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	277,808	△21,797
非支配株主に係る四半期包括利益	△5,762	△2,220

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。